

介護ロボット導入事例報告

令和5年 7月 21日

| 法人名 | 介護サービス事業所名 | 介護サービスの種別 |
|---|--|-----------|
| 社会福祉法人栗山福祉会 | 特別養護老人ホームくりのさと | 介護老人福祉施設 |
| (1) 介護ロボットについて | | |
| 介護ロボットの種別 | 介護ロボットの製品名 | |
| 見守り・コミュニケーション | パラマウント社 眠りSCAN・眠りSCAN eye | |
| 介護ロボット導入時期 | 導入台（セット）数 | |
| 令和4年 3月 30日 | 眠りSCAN 10台 眠りSCAN eye 10台 | |
| 見守り機器の導入に伴う通信環境整備の内容 | | |
| wi-fiの整備 インカムの導入 | | |
| 【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】 | | |
| 対象者：主に夜間の睡眠状態に問題がある方、認知症等により居室内ベッド上で多動的で転倒事故リスクの高い方、看取りの方 使用状況：ベッド上で特変検知した場合にPCとインカム端末に通知し、遠隔でも状況を把握する。 使用頻度：入院・退所等で変動あるが、7～10台常時稼働。 | | |
| 【介護ロボット・見守り機器の導入に伴う通信環境整備の効果（導入による業務改善状況等）】 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 対象の利用者については、見守り機器設置後の居室内転倒事故0件を達成中 センサーマットのみの導入時と比べ、見守り機器作動時の対象利用者に対する職員の訪室移動回数が約60%削減 | | |
| 【介護ロボット・見守り機器の導入に伴う通信環境整備の不都合な点の課題】 | | |
| 介護ロボット（眠りSCAN）について、褥瘡患者に使用するエアーマットと併用した場合、通信の接続が不安定な場合がある。 | | |
| 従前の介護職員等の人員体制 | 常勤介護職職員人員体制45名（利用者2.87人に一人） 常勤看護職人員体制8名 | |
| 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制 | 常勤介護職職員人員体制45名（利用者2.87人に一人） 常勤看護職人員体制7名 | |

利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・インカムでの情報共有の円滑化によって不要に持ち場を離れる時間を削減し、レク時間の総時間を約30%増加できた。1日当たりの見守り担当の配置時間については1日当たり平均約15%増加できた。
- ・見守り機器を看取りの利用者に設置することでバイタルを可視化し、見守りの強化と職員の精神的負担軽減にもつながった。
- ・月1回開催しているリーダー職会議にて見守り機器の対象者を都度見直すなど、ケアの質の向上につながる活用方法について検討する機会を設け、現在も継続している。

導入計画時に立てた見込みの人員体制と異なった場合はその理由

昨今の半導体供給不足の影響等により事業完了報告が令和3年度末頃となり、実質的に導入からまだ1年余りであるため、人員体制的な効果としてまだはっきりと表れていないものと考察する。加えて、令和4年度には新型コロナウイルスの施設内集団感染も発生したことから、介護職員体制の確保を優先した背景もあった。尚、現状の介護職体制45名の内1名は試用の者であり、実質的に稼働している人員は44名である。